

### デンソー山岳部 11年度春山 山行報告書

山城 : 北アルプス 蝶ヶ岳・常念岳

日程 : 4/28（木）夜発～5/1（日）着、行動3日、予備日なし

メンバー : 亀山（CL）森（SL）、芦田、神戸、郡谷、津田、町田



## 第1日 : 4/29(金) 晴れのち曇り

【行動記録】 歩行=8H

沢渡駐車場(5:40) → 上高地バスターミナル(6:05) ジャンボタクシー  
バスターミナル(6:40) → 明神(7:40) → 徳沢(8:40 - 9:00) → 長堀尾根(約1時間毎に1本) →  
長堀山(13:05) → 2630m: 蝶ヶ岳 300m 手前にてテント設営(14:40) 夕食 (17:00)

【上高地～徳沢～長堀尾根～蝶ヶ岳テマ場】 : 神戸

ジャンボタクシーがバスターミナルに着くと、青空を背景に穂高の吊り尾根がくっきりと見え、蝶ヶ岳からの眺望の期待に胸が膨らんだ。途中明神で1本とり徳沢から長堀尾根へと本格的に登りとなった。針葉樹の森の中に先行者のステップ跡があり、黙々と慎重にステップを切って行ったが、アイゼンをつけてからは安心して登れるようになった。12時過ぎに針葉樹の背丈が低くなったあたり、穂高の展望台という場所で振り返ったが、いつの間にか乳白色のガスが出始めており期待の穂高連峰は見えなかった。



14:30にデンソー山岳部が以前にテントを張ったという蝶ヶ岳手前300m場所に到着したが、風が強くなることを見越してさらに50m前の樹林帯に戻ってのV8テント設営となった。これが正解であった。

テントを張り終え、日が傾くと、いつの間にかガスが晴れて穂高連峰の姿を拝むことができた。日が落ちた後は、テントでの食事となった。

## 第2日 : 4/30(土) 晴れのち雨(次第に+烈風・雷・霰)

【行動記録】 歩行=12H30M

起床(3:30) → テン場出発(5:15) → 蝶ヶ岳ヒュッテ(5:35) → 蝶ヶ槍(6:35) → 最低鞍部(6:55) → 常念手前の小ピーク(8:20) → 山腹(9:40) → 常念岳頂上(10:30) → 常念手前の小ピーク(11:20) → ?(12:40) ~この間約1H ごとに休憩(風雨強く消耗のため記録ナシ) ~ → 蝶ヶ岳ヒュッテ(17:15) → テン場着(17:45) → 就寝(21:10)

【蝶ヶ岳～常念岳山頂(往路)】 : 森

昨夜就寝前から既に本日の行動は始まっていた。夕食時に3年前の春山合宿A隊の記録を読む。A隊(フル装備)が4Hで踏破しており、我々でもアタックザックなら往復8~9Hと思われ勝算は十分。岩稜でザイルを出す場面に備え結び方を、またビーコン装着と探索手順をおさらいして万全を期する。

いざ夜が明けるとテン場は思ったほどの風もなく、槍から穂高まで一望、ほんの少し雲あるもほぼ快晴。強風が予想されたため亀山CLより一同に耐風姿勢を



指導いただく。朝の支度で少々もたつき予定の5時を過ぎたが、いよいよ歩行開始。雪は締まっておりアイゼンがよく効く。しばらく歩いて蝶ヶ岳山頂(2677m)の標識を過ぎ、テン場を横目に蝶ヶ岳ヒュッテに到着。5~6張のテントは地面の雪をブロック状に積み半地下のように張っており、ここの風の強さがしのばれる。朝のお勤めを済ませ出発。

稜線上はさすがに風が強く、舞い上がる雪が頬に当たり痛い。だらだらと広い稜線上を三角点、蝶ヶと順調に通過。前方にこれから攻める常念がどっしりと横たわっている。蝶ヶから大きく下った鞍部で一本。次第に雲がかかってきたがまだ穂高は見えている。



途中団体が雪上訓練をしている。先行するパーティーは2,3組のようだ。大きな雪面の上を行きたいところだが右手(松本側)には大きく雪庇が張り出しており樹林のきわを縫うように進む。

この先小ピークを3つほど超えるというのでその一つ一つを目標に歩を進める。次第に日差しが薄くなってきた。樹林を抜け稜線に出るとあらためてその風の強さに驚く。常念手前の最後の小ピーク、山陰に回り込むようにして風を避け一本。ここからいよいよ最後の登りだが、これまでと違って岩場が中心であり風をよけて休む場所もなさ



そうなのでここで一同準備を整える。各々足場を作ってピッケルを刺しザックを確保、行動食を摂り、ハーネスを装着。体が冷えぬうちにと亀山CLに出発を促され出発。

強風に上着がバタつきすごい音を立てている。時折雨も混じるようになってきた。穂高のほうは既に暗く、低い雲が速く流れている。気は急だがオーバーペースでは最後までもたないと昨日の失敗が頭をよぎり、ゆっくり確実に歩く。雪の付いた岩場の登りはコース取りが難しい。赤マルで大きな方向を掴みつつ先行パーティーのトレースをたどったが、固く締まった雪面上ではアイゼンの跡も強風に消されており、また先行者も岩場で向きや歩幅を大きく変えていたり、ルートを突然見失いがちになった。雪面か岩場か悩みながら、あっちのほうの方がよかったと反省することしきり(皆さんすみません)。爪と岩との点接触を信頼していいのか、頭では理解していても少し不安になる。夏山に比べ靴そのものが重く、アイゼンの重さ・歯の高さが加わって、岩に足を乗せるのがいちいち難儀だ。

苦勞しているうちにだんだん岩の壁が残り少なくなってきたと思ったら、のっぺりとした雪の斜面が前方に出現した。「祠だ！」思いがけず近いところに山頂はあった。10:30 山頂(2857m)着。ここまでトップを引かせてもらった特権で山頂一番乗り。槍から穂高は既に雲の中、期待していた展望は得られなかったが気分は最高。そうそう、この達成感!と久しぶりに思い出す。みんな満足気、いい顔だ。



**【常念岳山頂～蝶ヶ岳(復路)】 : 郡谷**

10:40 常念岳の頂上にて写真撮影の後、頂上を出発する。いくらか風が強くなってきた。ところどころ岩がむき出しになっているため、アイゼンをつけた靴では風に煽られバランスを崩しそうになる。時間とともにさらに風が強くなり、雲行きも怪しくなってくる。休憩で少しでも休もうものなら、風によって体温が奪われ寒く感じる。

13:00 過ぎ頃から雨が降り始め、カップを着ると同時にアイゼンを外した。ペースの違いにより、先頭と最後尾がだいぶ離れ、しかもガスがかかっているため先の人の姿が見えなくなる。雷も鳴り始め、不安になりながら足をすすめた。雨で靴も手袋も濡れてしまい、そこから体温が奪われ、少しでも行動をやめると寒くて仕方がなかった。体力の差もあったが、歩行スピードが遅いため強風にさらされる時間が長くなり、時間の経過と共に足下がふらついているようだった。

途中の急登でアイゼンを再び装着。風に飛ばされないように斜面に這いつくばるように登った。やっとの思いで蝶ヶ岳の頂上に着くと、更なる強風が私達を襲った。風速 15~20m はあるだろう風が吹き付け、横殴りの雨風で顔や体に当たる雨が痛い。瞬間的にそれ以上の風がくるので、耐風姿勢をとりながら慎重に行く。登り始めに、強風が吹いた時の耐風姿勢を習っていたのが幸い、すぐ実践に移すことができた。動くことができないほどの風に、一歩足を踏み出すのに時間がかかってしまう。早く安全な場所に戻りたいという気持ちでいっぱいだった。休みなく吹き付ける風に休憩どころではなく、疲労が重なりペースは極めて遅い。雲の流れが早く、風は変わらず強いが、気付くと雨が止み穂高の山々が時々見えていた。

蝶ヶ岳の小屋まであと少しという所に、一人の男性が座り込んでいた。呼びかけてもゆっくりこちらを見るだけで、動ける様子ではなかった。自分の体を支えるだけでも必死な状況下で、私達ではどうすることもできなかった。

小屋に着き、男性の遭難救助依頼をし、全員の到着を待つ。テント場までもう少し。小屋の周りに前日あった5~6張のテントは撤収されていた。テントのポールが折れるほどの風だったようだ。不安な思いでテント場へ向かうと、そこには黄色のV8がしっかりと私達を出迎えてくれた。12時間もの行動時間を終え、全員無事に戻ってこれた喜びをかたい握手で分かち合った。

**第3日 : 5/1(日) 雨****【行動記録】 歩行=6H20M**

3:00 起床 → (テント撤収) → 5:10 テン場発 → 6:40~50 一本(樹林帯の中 2400m付近?)  
→ 8:30~35 一本(樹林帯の中 1800~1900m付近?) → 9:20~30 徳沢 → 10:15~30 明神館  
→ 11:30 上高地 → 沢渡 14:00 発 → 18:00 刈谷

**【蝶ヶ岳テン場～長堀尾根～徳沢～上高地】 : 津田**

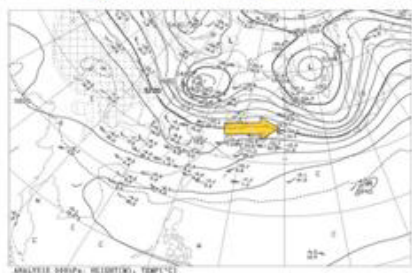
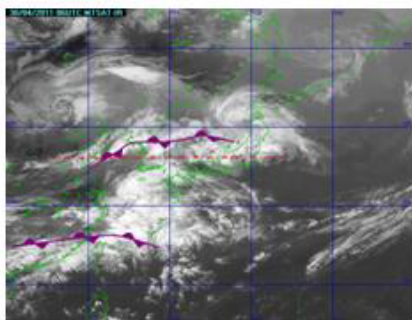
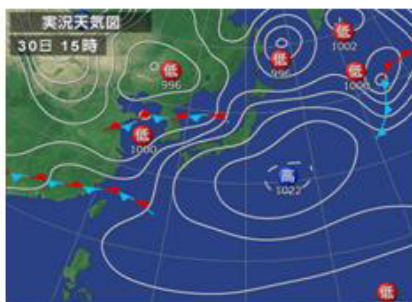
携帯アラームの音で眼が覚める。早速にテントの中を片付け朝食準備。郡谷が苦心して持参の生卵入りラーメンを皆が旨そうに食す。私は、不覚にも昨日の嘔吐の影響から脱しきれず、昨日のご飯をワカメスープ風茶漬けの軽めの特別食。朝食後、手際良く出発準備。テントも撤収し、小雨の中、5:10に出発。昨日の強風を思えば、これぐらいの雨は、屁のカップだ。森君の後を神戸君が続くが、ズボッ、ズボッと雪の中へはまり込んで大苦戦だ。お陰で私は、はまり込みそうな箇所を避け体力温存の効率歩行。前の3人は、黙々と歩く。後ろの3人は郡谷を中心にピークパークと賑やかだ。中間の芦田君は、いかにも慎重に歩を進める。1時間程、歩いたところで芦田君が休憩しそうな顔をしている。もう30分歩くぞ!と、リーダーの亀さんから声がかかって、1時間半で一本。蝶ヶ岳ヒュッテから下山してきたというアベックに、昨日倒れていた男性の様子を聞いたが、今朝、亡くなられたようだ。

つつい遅れがちになる芦田君を2番手として出発。降るにつれ、凍っている箇所が頻繁に出てくる様になり、つい油断するとツルッと滑って尻もちをつく。難儀して徳沢へ。

後は、上高地までの長い長い歩行だけだ。全員が11時30分に上高地へ到着し、連絡済のジャンボタクシーへ乗込み、沢渡温泉へ。身体を湯に浸して、あ〜極楽だ!さっぱりして、ゆっくりと食事をして、刈谷へ。厳しくも印象に残る山行が終了した。

■ 気象状況 : 町田

4/30日の天気解析



なぜ雨が降ったの？

サブハイ(亜熱帯高気圧)と寒冷渦のコントラストに加えて、西からの高相当温位の暖湿気の流入が原因

なぜ風が強かったの？

日本の南海上で勢力を増したサブハイと、日本の北にある二つの寒冷渦の南下により、等高度線が密集し、強風となった。

どのくらいの風が吹いたの？

700hPa(≒3000m)以上の高度では50kt(25m/s)を超える強い西風になっている。

なぜ雷がなったの？

高相当温位の領域の上は、対流不安定になっており、このため所々、雲頂高度が1万mを超える積乱雲が発達し雷が発生した。

我々は当日の天気を「天気晴朗なれど風強し」と風に関してはそれなりの備えをした。しかし、予測をはるかに超える強風と、まさかの雨・霰・雷は予測できなかった。地上天気図から予測の精度を上げる必要性を強く実感したが、地上天気図から上記現象を予測するのは至難の業である。よって山行前日、気象庁の24時間・48時間後の気象予測を参考にし、合宿や例会等大きな山行は大矢気象予報官のサポートを受け、慎重に行動するしかない。

気象担当: 町田

■ 装備 : 神戸

(共同装備)

- ・V8 テントの信頼性は頼もしい。30日強風の中テントにたどり着いた時の安堵感は忘れられません。
- ・水(お湯)を作るのに雪袋を使って雪を前室に置いておくのを知らなかったので勉強になりました。

(個人装備)

- ・山専用のヤッケ、手袋、合羽を持ってこなかったのは失敗。ありあわせのものでは生命の危険にさらされると肝を冷やした。また防水性・重量に気を配るべきだった。
- ・個人コッヘルを忘れてしまい、津田さんに借りた。
- ・テント内の就寝時の温度が想像できなかったので、テントブーツ(羽毛)、アクリル毛布を用意。1日目は暑くて寝られないほど。2日目は寒がっていた津田さんに毛布を貸して好評でした。
- ・給水パイプは保温スポンジのおかげで凍らずにすみましたが、圧迫されると水漏れがあり、3日目はキャップが緩んでいたためか、給水自体できませんでした。
- ・GPS を持参。(トレース記録用、念のための装備)

-----追記(森)-----

- ・テントの張り綱用細引きを忘れたと勘違いし(後で見つけたにもかかわらず)使用せず。烈風に加え、雨による雪の緩み(=竹ペグ抜けの恐れ)を考え、万全を期して張っておくべきだった。
- ・常念の岩場に備え各自ハーネスを装着して臨んだが、ザイルは使用せずに済んだ。ビーコン、ゾンデ、ハーネス、ザイル(結び方)など初心者は事前に使用方法を練習しておくべき。
- ・各自持物を強風に飛ばされないよう注意が必要。ザックカバー、帽子など飛ばされた。
- ・各自衣類・手袋などの濡れへの対処が必要。低体温症になりかねない状況であった。
- ・ストックは下降時にバランスをとるのに有効。(ピッケル使うほどの急斜面でもなければ)

**■食料** : 郡谷

1日目夕食：米飯（4合/7名）、レトルト牛丼、海藻サラダ、味噌汁

2日目朝食：チキンラーメン、卵入り

2日目夕食：米飯（5合/7名）、レトルトカレー、福神漬、卵スープ（津田さん体調不良で食べず）

3日目朝食：ラーメン、ソーセージ（津田さんは引き続き不調で前夜の米飯、卵スープ）

毎食後、コーヒー、紅茶、ほうじ茶など。

- ・水で戻すタイプの海藻サラダ、生卵を持参。目先が変わってよいと思う。
- ・行動後の休息には温かい飲み物がよい。コンデンスミルクは共同でもっておくとよい。
- ・疲れなどで食が進まないこともある。持ってきた分全部つくるのではなく適宜、量を調整すること。

**■感想**

<リーダー所見>（亀山）

皆さんお疲れ様でした。事前の予測に反し、大変厳しい天候となりましたが、メンバーの粘り強い頑張りや難を回避出来たことを感謝しております。リーダーとして、皆さんにかなりのリスクを負わせたことに対し反省しております。30日は早朝の好天から刻々悪天に変化していくにもかかわらず計画を続行したのは、パーティーの状態と行動予定を勘案し安全圏内と判断しました。

が、予想を上回る強風と雷の発生は厄介でした。後半は終始安全な行動を模索しながら行動していましたが、トップを歩く町田の判断にゆだねる所が大（信頼していた）であり、しっかりリードしてくれた。この貴重な体験を真摯に受け止め、今後の登山活動に活かしていきましょう！皆さんの更なる精進とステップアップを期待します。

---以下、メンバー感想---

今回の山行では風の恐ろしさを知った。強風の中バランスをとるのは難しく、何度もよろめき、つまずいてしまった。行動中、常に行動食を食べていたからか、うまく体力を発揮することができた。12時間という長い行動になるとは思いもしなかったが、こういった状況になっても冷静に対応できるように、登山の知識や経験、体力をさらにつけていきたいと実感した山行でした。【郡谷】

個人的には初の北アルプス、しかも雪山テント山行だったので、ちょっと緊張していたが、林間での雪上歩行については安全であった。ただ柔らかい雪に足を取られるのには閉口した。テント設営の共同作業では時間の使い方の大切さを学んだ。個人作業をもたもたしていると共同作業に加われない。また私は専用のヤッケをもたずスキーウェアなど重量のある荷物になってしまったが、定期的な行動食補給により、歩みは遅かったがバテずに登れた。【神戸】

今回は30日は命の危険を感じました。風で雪庇にひっぱられそうになったり、岩陰にしゃがんでいてと震えが来たり、変にハイになったり。亀山隊長には、私が低体温症になっているのではないかと心配かけたようです。命あることに感謝。今後は、森さんから下山の極意を盗むとともに、郡谷さんを目標に基礎体力を強化します。【芦田】

結婚を機に山から遠ざかり久しぶりに「帰ってきた」。メンバーの皆さんも山も、相変わらず温かくそして厳しく迎えてくれた。アイゼンの感触、風雪が打ち付ける頬の痛み、足がいっぱいになる感じ、ああこれだったとすぐに感覚を取り戻したが体力だけは別だった。体力温存して前半抑えているつもりでも後半キープどころか早々に出し尽くしてしまい、途方もない疲労感のなか毎日を終えた。天候も疲労も自分の経験で1、2を争う厳しさだった。山で長時間行動できる体をつくるにはやはり山で長く歩かない。じっくり取り組もう。この印象的な山行を共にさせていただいた皆さんに感謝します。【森】

蝶槍までは、風は強かったが天気も良く、槍・穂を初め周囲の山々も見渡せて楽しい山行であった。途中から曇り空となったものの常念岳までは、余裕のある山行であった。山頂は寒く、写真を撮って早々に降ってからの復路は、きつかった。樹林帯の中へ入り、雷が鳴り出し雨が降り出した為、カップを着けた頃から疲れからか？皆の足取りが重くなった様に感じる。樹林帯を抜けたら突風が待っていた。強烈な突風に阻まれ、前へ進めない。少し進むだけで息もゼーゼーハ～ハ～。突風に耐えては息を整え、風の弱まるのを待っては前進する。時間だけが過ぎていくが、距離が稼げない。蝶槍への登りの最後の急斜面で、アイゼン装着の指示。足場を整え、リュックを落とさない様にピッケルで確保し、アイゼンを取り出す。雨と強風の為に、体は寒く感じるが作業がなかなか進まない。森君が私の下まで登ってきてサポートしてくれている。やっどこさ、アイゼンを装着するも、リュックを担ごうとするが、焦っている為か、左腕が通らない。やっど、担ぎ終えては、ピッケルの先端を雪の斜面へ打ち込んで、一歩ずつ這い上がっていく感じで進む。ようやく、急斜面を登りきり尾根へ出ると、容赦なく突風が吹き荒れている。最後は、へべれけになってヒュッテへ。さらに最後の力を絞りきってテントへ辿りついた。

【津田】

## ■ 総括

異例のメンバー構成(何年ぶりかの雪山登山：森・久々の雪山登山：芦田・急遽エントリーの津田・本格的雪山体験初の神戸・郡谷)と異例の気象条件(烈風と雨と霰と雷)と異例の遭難者遭遇(後日死亡確認)の下で当初計画を100%達成した。達成の要因はCLの適切な判断と指示・メンバーの必死の頑張りである。しかし、達成とは裏腹に課題・弱点も明確に見えた。だから厳しく言えば成るべくしての達成ではなく、幸運にも上手く行った。が本質ではなからうか。さて課題だが、一つは体力差のバラツキが大きいパーティー構成での行動スピード失速の問題。二つ目は個々人の雪山スキルの問題。三つ目は気象予測の未熟さによる行動のリスク回避ができなかった事である。今回は合宿という位置づけでないから、しかるべきステップを経ていなくてもエントリーできた。しかし一つ目は最低個人の責任で雪山にチャレンジする以上努力して参加すべきである。なぜなら当クラブが一番遅い人にスピードを合わせるからだ。今回、30日の行動時間は12時間を超えた。雪山で悪天下での残業4時間はあまりにも長すぎる。アタックザックで足並みが揃えば残業なしでも可能な常念岳のピストンだと思う。二つ目は言わずもであるが、テント内での身の整理・アイゼンの脱着・・・etc。三つ目は事前予測への過信である。現状の気象状態により慎重に対処すべきだった。とは言え、地上天気図から今回の風を、雨を、雷を予測できたか？更なる精進が必要になる。

が然し、上記にも増して以下の収穫が私をうれしくさせる。それは森のクラブ復帰・雪山登山復帰であり、神戸のあの体格での必死の頑張りであり、郡谷の想像をはるかに超える体力と山への素直な傾倒である。併せて蝶ヶ岳直下、長堀尾根の肩にV8を残し12時間、あの強風下、もしかの思いで辿りついた時V8は、“お帰り”と立っていた。今回の山行の幸運をはっきりと感じた。



最後に心の中にすっきりとしないところが残っている。私たちパーティーが置かれている状態での遭難者への対応だ。はっきり言えることは、わが身が危うい最悪の状態以最善の手(小屋への通報と救助依頼)がきっちり打てた事。彼が生還してくれていたら上記“すっきりとしない”もすっきりしたことだろうが。

いつもの春山合宿にも増して尚、記憶に残る素晴らしい山行が一つ増えた。次回は西方に白く連なる穂高を、少しレベルアップした皆さんと晴れた日にスピーディーに歩きたいですね。

2011.05.05 町田